

1 取組名称

日本語によるアカデミックライティングサポート：ワークショップおよび個別支援の実施と支援体制の構築

2 取組組織等

国際センター、大学教育センター

3 取組実施代表者名

国際センター 准教授 黒田 史彦

4 取組年度期間

2018～2019 年度（2年間）

5 取組の概要

多くの大学の初年次教育やリメディアル教育において、日本語リテラシーを強化する重要性が指摘されている。日本語による発信能力の基盤となる日本語リテラシーは、在学中の学修活動においてはもちろん、就職活動用エントリーシートの作成、さらには卒業後の社会適応にも不可欠な知識・能力の総体である。本学にあっても日本語リテラシーの強化・増強は、不可欠である。特に、学部新入生を始めとした学生たちには、授業レポート、小論文、学位論文、プレゼンテーションの発表原稿といった学術的文章を作成する高い能力が求められる。国際センターでは、2010（平成22）年度より、留学生を支援対象とした日本語アカデミックライティングサポートを開設してきた。今まで蓄積してきたノウハウを活用することにより、本学に在籍する全ての学生に対して日本語リテラシーの育成、分けても、学術的文章作成能力の向上を図る。

具体的には、正課外における支援として、言葉の専門家から学術的文章の書き方を学ぶ機会（ワークショップ）を提供する。併せて、学術的文章の作成を個別的に支援する機会（アカデミックライティングサポート）を設け、本学学生の論理的思考力および問題解決能力を伸ばす。

6 事後評価の総合評定

3. 8 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った5段階評価（5～1）の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- アカデミック・ライティングは大学生として基礎となる技能であり、日本語母語話者にとっても非母語話者にとっても重要であり、総合大学では（日本・米国含め）組織として必要な措置である。専門家を招いたワークショップや学習者とのインターラクティブな対話を通じた交流的指導も有効なものであると思われる。
- アカデミック・ライティングのスキルの向上の必要性は高いため、このような機会があることは学生にとって大きなメリットである。
- 世界共通のライティング技術であるパラグラフ・ライティングは、英語で学術論文を書く際にもそのまま使える手法である。既に進めている「論文作成の基礎」などの講習会との連携をさらに強化していくことを期待する。